

---

平成 29 年

# 7 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

### 新たなブランドづくり

#### 西濃農林■なし 梨西日本根圏制御栽培法現地展示会を開催～新たなブランド創出支援事業～

7月6、7日の2日間、果樹の根圏制御栽培法実践コンソーシアム共同研究機関の主催による「西日本根圏制御栽培法現地展示会」が開催された。6日は三重県でシンポジウムや展示会が、7日には大垣市で(株)D I Bが栽培管理する根圏制御栽培ほ場にて現地展示会が開催され、現地展示会では100名程が参加者して栽培施設や生育状況に関する現地検討を行った。

大垣市の梨生産者は展示会、現地展示会に参加し、早期多収生産技術について理解を深めた。

農業普及課は、農業経営課・大垣市・JAにしみの等の関係機関と連携して現地展示会の開催準備及び支援を行った他、栽培管理方法や生育状況について説明した。今後も、栽培管理指導により、根圏制御栽培法の確立と普及を目指す。



【梨根圏制御栽培法現地展示会】

#### 下呂農林■エゴマ 系統選抜に向けて生育調査を実施中

「飛騨小坂あぶらえ生産組合」では、小坂地域内の在来種の中から、より生産性が高く機能成分を多く含む系統を選抜するため、下呂農林事務所や中山間農業研究所、下呂市と連携し、現地に試験ほ場を設置している。

農業普及課では、定期的に生育等の調査を行い、管理方法などについて担当農家へ指導を実施している。

今後は、開花及び収量調査を行い、得られたデータに関係機関で分析して、より付加価値の高いエゴマが生産できるよう支援していく。



### 多様な担い手づくり

#### 揖斐農林■揖斐地域就農支援協議会 就農相談状況を確認・支援施策の情報共有

7月20日にJAいび川、3町、揖斐農林事務所合同で、揖斐地域就農支援協議会を開催し、就農実績や就農相談状況について情報共有を行った。また本年度の就農応援隊活動や、就農研修拠点の整備などについて情報共有や役割分担を行った。

揖斐地域では、JAいび川（JAいび川担い手育成サポートセンター）を運営主体として就農研修拠点の整備が進んでおり、「サポートいび塾」という名称で、来年度開塾が予定されている。研修品目は、柿や土地利用型的水稻などで、これらの複合経営を目指す人や営農組合のオペレーターの育成を目的としている。

農業普及課では、関係機関と連携しながら、今後も就農相談や研修など営農定着に向けた支援を行っていく。



【就農支援協議会風景】

#### 郡上農林■女性農業経営アドバイザー 郡上市農業女子会を開催！！

女性農業経営アドバイザー郡上地区は、市内の女性農業者を対象として『第3回農業女子会』を7月4日に開催し13名の参加があった。この会は、昨年度から地域全体の女性農業者の連携を目的として開催されており、農業普及課は郡上市と共にアドバイザー支援の一環として、農業女子会の企画・運営に携わってきた。

今回は、JAめぐみのの協力を得て、女性のための農機具安全講習会を開催し、女性に合わせて開発された草刈り機などの紹介



【地域や品目を越え交流】

が行われた。

その後6～7名の小グループにて情報交換を行い、地域や品目を越えた交流ができ、今後の農業女子会の活動展望について検討する事ができた。

農業普及課では、郡上市と連携を深め、農業経営アドバイザーの活動支援を継続すると共に、地域女性農業者の活躍を応援していく。

### 可茂農林■白川町 美濃白川夏秋トマト基礎講座の開催

6月30日に新規就農者及び研修生を対象とした、夏秋トマトの基礎講座を開催した。

あすなる農業塾長の元で、技術及び作業を学ぶ中で、それら技術がどのような科学的根拠に基づいて構築されているか農業普及課より説明した。

本基礎講座は、先般当地域で設立した新規就農支援組織「美濃白川ふるさとネット」及び美濃白川夏秋トマト部会で共催している。

農業普及課としては、引き続き部会と協力しながら、作付期間中にこの講座を7回実施する。



【基礎講座の様子】

### 東濃農林■集落営農 集落営農法人の設立に向けて

瑞浪市日吉町深沢地区では、本年10月の農事組合法人の設立を目指して、集落営農法人設立準備委員会にて組織体制や各種事業の活用について検討を行ってきた。

7月23日に集落全戸を対象とした説明会を開催し、設立する法人の概要や農地中間管理事業の活用について、地元委員及び瑞浪市役所から説明が行われた。

農業法人を設立する計画については、全体を通して反対意見はなく、集落での合意形成を図ることができた。説明会後の時点では、集落の半数以上となる26戸が加入見込みで、法人への農地集積面積は約9haとなる予定である。

農業普及課では、地元委員や集落の方々には集落営農法人についての理解を深めてもらえるよう、説明資料と経営計画の作成を支援してきた。10月の法人設立に向けて、引き続き関係機関と連携しながら支援を行っていく。



【集落説明会の様子】

## 売れるブランドづくり

### 岐阜農林■えだまめ GAP現地調査実施

7月14、21、24日に、JAぎふえだまめ部会は、部会員(合渡、島地区)を対象に、GAP現地調査を実施した。6月に開催されたえだまめ部会役員会において、部会全体でGAPの取り組みのステップアップを目指すことが確認され、昨年よりも調査項目数を大幅に増やして取り組むことを決定していた。

調査項目が増えたことから、現地調査方法や新たな項目の周知の仕方など、生産者だけでなく関係者にも戸惑いを感じる声が聞かれたがその都度改善に向けた意見を出し合いながら取り組みを進めている。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目の対策などについて検討する予定である。



【GAP現地調査の様子】

## 中濃農林 ■ GAP GAP 認識の向上

7月20日、県主催の「GAP実践セミナー」が中濃総合庁舎で開催された。GAP（農業生産工程管理）は、食品安全、環境保全、労働安全に配慮し、持続性ある農業生産活動を行うための取り組みである。農業普及課では、生産者にセミナーへの参加を広く呼びかけ、中濃管内では水稻、野菜、果樹の生産者13名が参加した。セミナーでは、講師からGAPの意義や目的、取り組み内容、認証制度等について具体例を挙げながら分かりやすい説明があった。

今後、農業普及課では、更に生産者のGAP認識を深め、GAP取り組みによる経営改善提案を行っていく。



【セミナーの様子】

## 恵那農林 ■ 米 「極良食味米産地確立プロジェクト」現地情報交換会を開催

管内の生産者、JAひがしみの、中津川市、恵那市、県が一体となり、昨年度から活動を開始した「東美濃産コシヒカリ」極良食味米産地確立プロジェクトでは、生産者間の情報交流等を目的として、7月18日、25日、31日にそれぞれ恵那総合庁舎、JAひがしみの恵南ホール、中津川市福岡公民館の3会場において現地情報交換会を開催した。

当日は、まず室内検討において、食味向上のための新しい栽培技術の検証経過、東美濃産コシヒカリに対する実需者側からの期待と要望等について説明し、その後の現地検討では各地域に設置中の新しい技術の現地実証ほ場において実証内容等について説明し、各種意見交換を行った。

農業普及課は、今後も同プロジェクトにおいて生産者、関係機関を先導し、極良食味米産地の確立に向け積極的に活動を推進する。



【現地検討の様子(7/18)】

## 飛騨農林 ■ スナップエンドウ新たな作型への挑戦 スナップエンドウ（秋作）栽培検討会の開催

7月11日にJAひだ吉城営農センター、7月12日、JAひだ丹生川支店において、生産者並びに関係機関ら21名で秋作のスナップエンドウについての栽培検討会を開催した。

秋作は、全国で品薄となる時期に合わせて栽培するため、希少価値として高値での取り引きが期待されている。

検討会では、秋作の栽培技術確立のための播種時期、高温対策、灰かび病対策並びに栽培上の課題点について検討した。

今年はチャレンジの年として位置づけ、生産者や関係機関とともに秋作に取り組む予定をしており、参加した生産者からは、播種時期の変更や病害対策のための取り組みなど様々なアイデアが出され、活発な議論が展開された。

今後は、全国での栽培事例のない秋作の栽培技術を開発し、新たなひだブランドの確立を目指し、生産者や関係機関と連携しながら進めていく。



【検討会の様子】

## 農業革新支援専門員 ■ 飛騨牛 第11回全共・肉牛区出品牛の決定

7月19日に飛騨家畜流通センター（高山市）において第11回全国和牛能力共進会肉牛区の最終選抜会が開催された。

革新支援専門員は（公社）全国和牛登録協会岐阜県支部、JA全農岐阜県本部、畜産研究所、家畜保健衛生所等とともに審査を行い、候補牛の体重、血液成分値、機器を用いた肉質診断情報及び肥育状況に基づき出品牛（7区3頭、8区3頭、9区2頭）を決定した。

革新支援専門員は関係機関とともに第11回全共本番まで出品牛の肥育仕上期の適切な飼育管理について指導を実施し、第11回全共での最優秀賞奪還を目指す。



【肉牛区の選抜会】